

令和3年8月6日
7～9年生平和集会

戦争で失われた人々の思いを引き受ける

東原摩舎中央校 校長 下村昌弘

- 7, 8, 9年生の皆さん、おはようございます。今日は、長崎原爆家族・交流証言者の中島麗奈さんから原爆の壮絶な様子、被害にあわれた方の苦しい思いを伺い、「原爆は過去の出来事ではない。被害者の方にも私たちと変わらぬ日常があったのだ」ということを改めて感じてくれたことと思います。
- さて、6月23日、オンラインで皆さんに話しました。
 - 6・23
 - 8・6
 - 8・9
 - 8・15この4つの数字は日本人として絶対に忘れてはならない数字だと。何の数字が分かりますか。分からない人は担任の先生に訊いてみてください。
- そこで今日は、私の個人的な体験をお話しします。
- もう何十年も前のことですが、私が大学生だった時、夏休みを利用してひと月ほど中国を旅行しました。香港から入り、桂林、長沙、北京、フフホトと南から北へ移動しました。いわゆるバックパッカーです。中国人はもちろんですが、いろいろな国の人と出会った刺激的な旅でした。
- その中で立ち寄った北京の歴史博物館。そこで軽いショックを受けたことを今でもよく覚えています。
- ある展示室に歴史年表が掲げられていました。北京原人から、現代にいたる歴史を整理したよく見る対応の年表です。
- その中のある年の記述に目が留まりました。1945年です。1945年8月15日。そう、日本人にとっては太平洋戦争の終結の日。いわゆる終戦記念日です。沖縄がアメリカ軍に占領され、広島、長崎に2つの原爆を受け、日本は連合国に負けた。日本人なら誰でも知っている事実。

- しかし、その年表にあった一行の記載は「中華民国は日本国に勝利した。抗日戦争勝利の日」という中国文でした。それを見た瞬間、背筋の凍るような思いをして建物を出た記憶があります。中国の人は今でも日本を敵として見ているのではないか。真夏なのに不思議と暑さは感じませんでした。
- 少なくとも立場が変われば見方が変わる。多面的に見ることでしか真実はわからない。中国の視点も日本の視点もどちらも受け止めながら私たちは協働的に生きなければならない。
- 想像力をたくましくしてください。今、私たちは、戦争があったという歴史の延長線上に生きています。
- 戦争で亡くなった方、戦争で辛い思いをされている方々の色糸な思いやそうした人たちの犠牲の上に「今」があります。
- 亡くなった方の中にはもちろんいろいろな国の方がいらっしゃるし、軍人だけでなく、一般の方、お年寄り、女性、子どもたちもいます。
- 私たちはそうした人たちの思いをきちんと引き受けて、自分の「生」を生きる義務があると思います。
- その意味で、誤解を恐れずに言えば、私は「戦争責任は、戦争を直接は知らない『私』にもある」と思っています。
- どうかみなさん、あなた自身の「今」をないがしろにしないでください。「今」を精一杯生きることこそが、戦争を引き受けて生きるということであり、戦争責任を果たすことにつながるのだと思います。
- 今日は夏休みの一つの節目として心の姿勢を正すことができたと思います。残りの夏休みを後悔のないように過ごしてください。

(おわり)